

東京IPO主催 個人投資家様向けIRセミナー



2026年9月5日
ニチレキグループ株式会社
(証券コード5011)

「道」創りを通して社会に貢献する
「道」創りのリーディングカンパニー

日本の「道」を強くする。ニチレキグループ



私たちニチレキグループは、
日本の **道路** インフラ を
アスファルト 舗装材料 や高品質な施工、
AI を活用した **点検** 技術で支えています。

「知る人ぞ知る会社」から
「みんなに知ってもらえる会社」になるために
ニチレキグループの事業概要についてご紹介します。

「種を播け」



「種を播け」

よい種を播いて歩こう
これが我が社のモットーです
たとえ、どんな旱魃がきても
枯れないような強い種をまき
汗を流して肥料をやろう
必ず立派な実がみのる
たとえ、自分がとらなくても
私はこう思っています
種まきをしないで
肥料をやらないで
誰も果実ばかりねらっている
は本当の繁栄はこない
私はそう思います

池田 英一（当社創業者）

企業理念



ニチレキグループ企業理念

基本理念(種播き精神)

『種を播き、水をやり、花を咲かせて実らせる』

たゆみない努力の積み重ねによって絶えず新しい仕事を創造していきます。

経営理念

ニチレキグループは、「道」創りを通して社会に貢献するため、

- ①優れた機能とコストを満足する道路舗装材料ならびに工法の提供
- ②国民の共有資産である「道」をいつも見守る高度なコンサルティング
- ③顧客から信頼される施工技術

これらを完全に一体化し、株主をはじめ幅広い顧客の皆様から信頼される「道」創りになくてはならない収益性に優れた企業グループであり続けるとともに、社員一人ひとりが能力を発揮でき、働きがいのあるグループであることを経営理念とします。

目次

- I. ニチレキグループと事業のご紹介
- II. ニチレキグループの競争優位の源泉
- III. ニチレキグループの成長戦略
- IV. 2027年3月期第1四半期 決算概要および通期予想
- V. 将来へ向けて
- VI. 株主様への還元

I . ニチレキグループと事業のご紹介

会社概要



名称	ニチレキグループ株式会社 NICHIREKI GROUP CO., LTD.	従業員数	1,434名 (連結、2026年3月31日現在)
本社所在地	東京都千代田区九段北四丁目3番29号	事業内容 グループ事業内容	グループ経営戦略の企画・立案および グループ会社の経営管理・監督、 グループ共通業務等 ・ アスファルト応用加工製品の 製造・販売 ・ 建築・土木用資材の製造加工・販売 ・ 道路舗装工事・防水工事・上下水道 工事、及びその他の土木工事の請負、 これに関する調査・設計・監理 他
創業	1943年10月 (設立 1949年9月)		
資本金	29億1,968万円		
代表者	代表取締役社長 小幡 学		

グループ沿革



1943年

池田英一が**アスファルト**を用いた**建築防水工事**を行う
「日本瀝青化学工業所」を興す

1950年

東京都荒川区に東京工場・研究室を建設、
アスファルト乳剤の製造を開始

1977年

栃木県の小山工場内に**技術研究所**を開設

2002年

中国・北京市に特殊舗装材料の製造・販売を行う
日中合弁会社・北京路新大成景觀舗装有限公司を設立

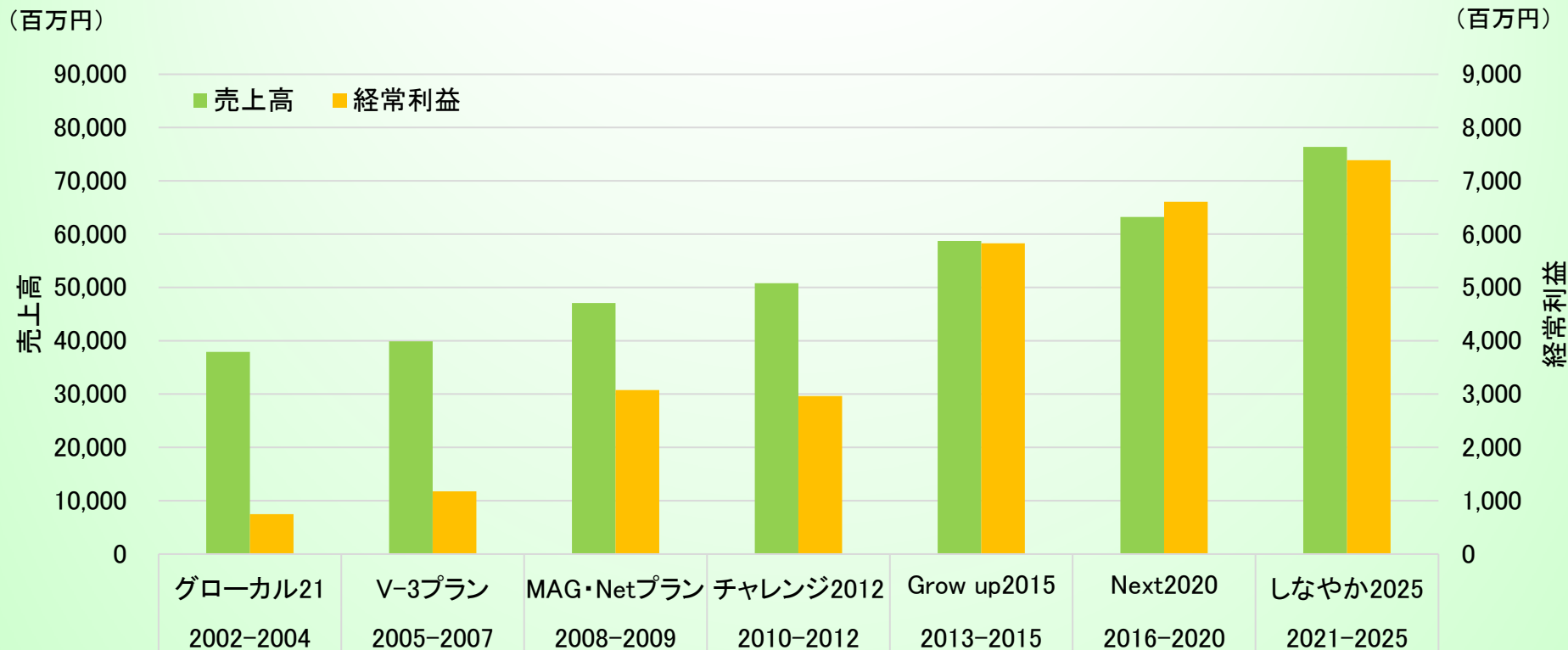
2022年

東証証券取引所「**プライム市場**」へ移行

2024年

10月1日 **持株会社体制**へ移行

しなやかに、着実に 成長してきました



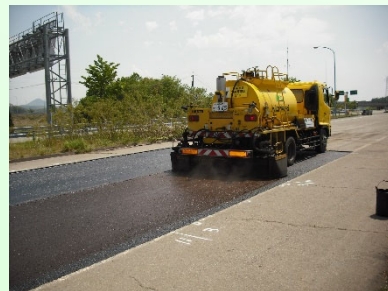
※各中期経営計画の平均

事業概要

主として道路舗装に関する製品、技術、工事等を幅広く提供する事業を展開

●アスファルト応用加工製品事業

アスファルト乳剤、改質アスファルト、道路橋床版防水材料、路面補修材、クラック補修材、景観舗装材料、工業用製品などのアスファルト応用加工製品の製造・販売、および建築・土木用資材の製造加工・販売



●道路舗装事業

道路舗装工事、道路橋床版防水工事、上下水道工事ならびにその他の土木工事の請負、およびこれらに関する調査・診断、設計、監理

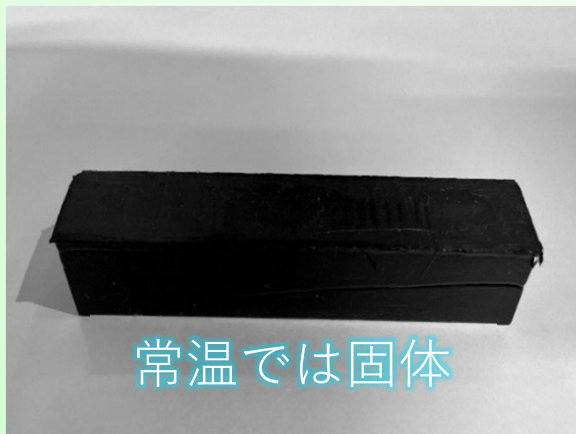


アスファルトってなに？



そもそもアスファルトとは・・・

アスファルトは、原油の蒸留の過程で作られる物体
常温では**固体**、**熱を加えることで溶解し、液状となる**性質を持つ
舗装関連では、碎石、砂、石粉などをつなぐ**接着剤**や**防水材**として使われる



加熱



ニチレキの主力製品①「アスファルト乳剤」



ニチレキは国内でトップクラスのシェア！

アスファルト乳剤は、
アスファルトを常温でも液状で取り扱えるようにしたもの



常温でも液状



顕微鏡写真

ニチレキは、国内初の
「カチオン系アスファルト乳剤」を開発



舗装工事が容易になったことで
戦後日本の物流網の発展に大きく貢献

ニチレキの主力製品②「改質アスファルト」



経済発展とともに道路の交通量が急激に増加すると、
道路の安全性向上が課題に

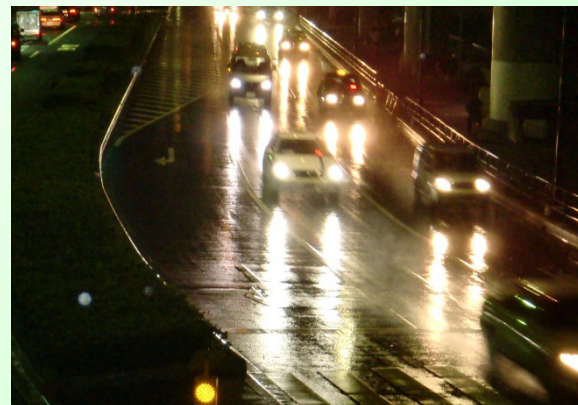
ひび割れ



わだち掘れ



雨天時のタイヤ滑りや
ライトの反射



ニチレキの主力製品②「改質アスファルト」



ニチレキは国内でトップクラスのシェア！

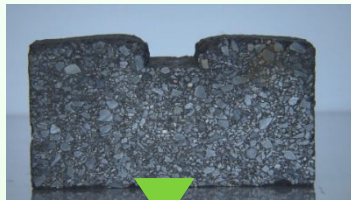
改質アスファルトは、
石油アスファルト（ストレートアスファルト）に
ポリマーなど様々な改質剤を添加して性能を改善したもの



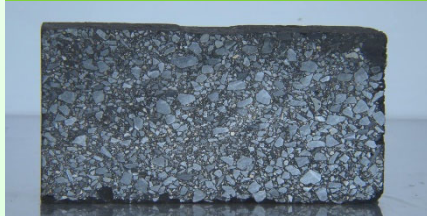
長寿命



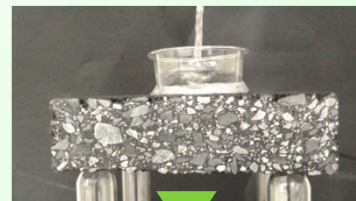
スーパーシナヤカファルト



耐重荷重



スーパーコンテナファルト



排水・低騒音



タフファルトスーパー

ニチレキの主力製品②「改質アスファルト」



💡 排水性舗装の登場で、雨天時の事故が約**8割**減少！



水を通す構造で
水たまりやライトの反射対策に



(参考) イタルダ・インフォメーション「高速道路の交通事故の特徴と対策」
<https://www.itarda.or.jp/contents/513/info25.pdf>

ニチレキの主力工法「スタビセメントRC工法」



スタビセメントRC工法

地震災害に強い舗装

傷んだ舗装をその場でリサイクル



アスファルト乳剤の柔軟性と
セメントの剛性でより強靱な舗装に



ICT導入でより精度の高い施工管理
生産性も向上



令和6年能登半島地震 復興でも活躍中

多様な製品・工法ラインナップ



長寿命、リサイクルなどのさらなる性能・機能を「プラス」する

『足可テコビリテヤ®』により、持続可能な道づくりに貢献

アスファルト乳剤

改質アスファルト

道路橋床版防水工法

景観工法

etc...



Ⅱ．ニチレキグループの競争優位の源泉

ニチレキグループ 競争優位の源泉



独自のビジネスモデル

舗装に関する調査・診断から補修方法の設計・提案、材料の製造・販売、工事の施工・管理まで一貫して手がける独自のビジネスモデル

研究開発力

お客様の困りごとや市場のニーズに対応すべく、創造性と独自性を発揮して新たな製品や工法を生み出す研究開発力

日本全国に広がるネットワーク

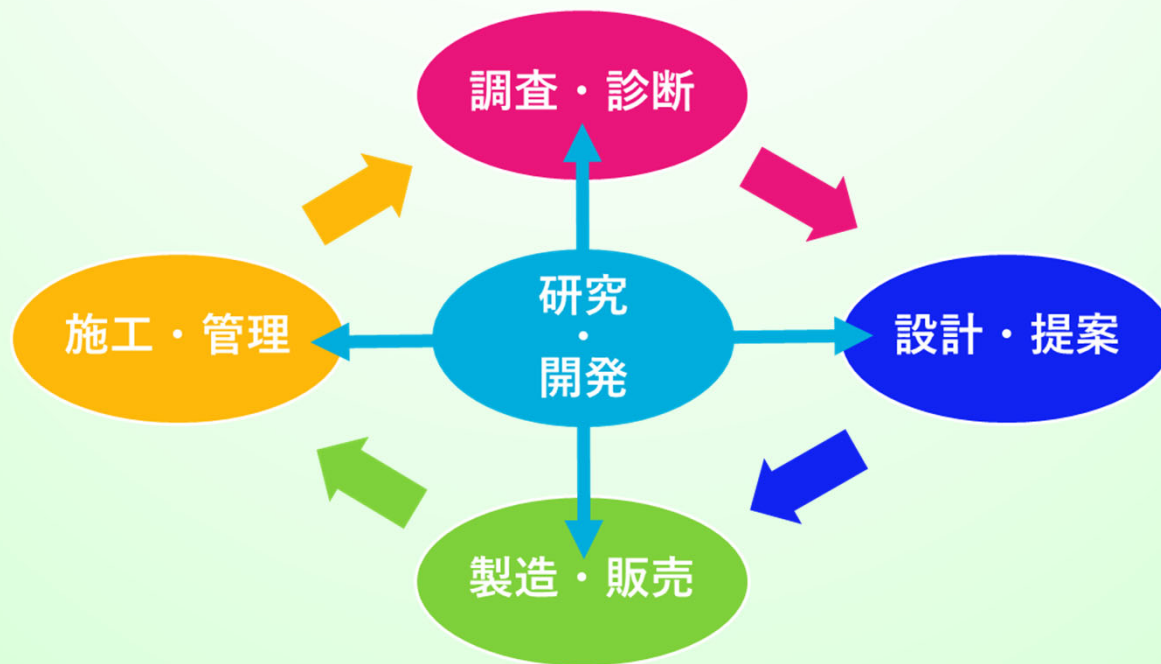
国内107 拠点(44/47都道府県)にもものぼる、全国各地の拠点で道路管理者・お客様と密接にコミュニケーション

ブランド力

高付加価値な製品と高品質な施工で全国の舗装関係者にブランドイメージが広く定着
アスファルト乳剤・改質アスファルトで国内トップクラスのシェアを占める

競争力の源泉① 独自のビジネスモデル

研究開発を核に、道路舗装事業のすべてを担っています



競争力の源泉② 研究開発力



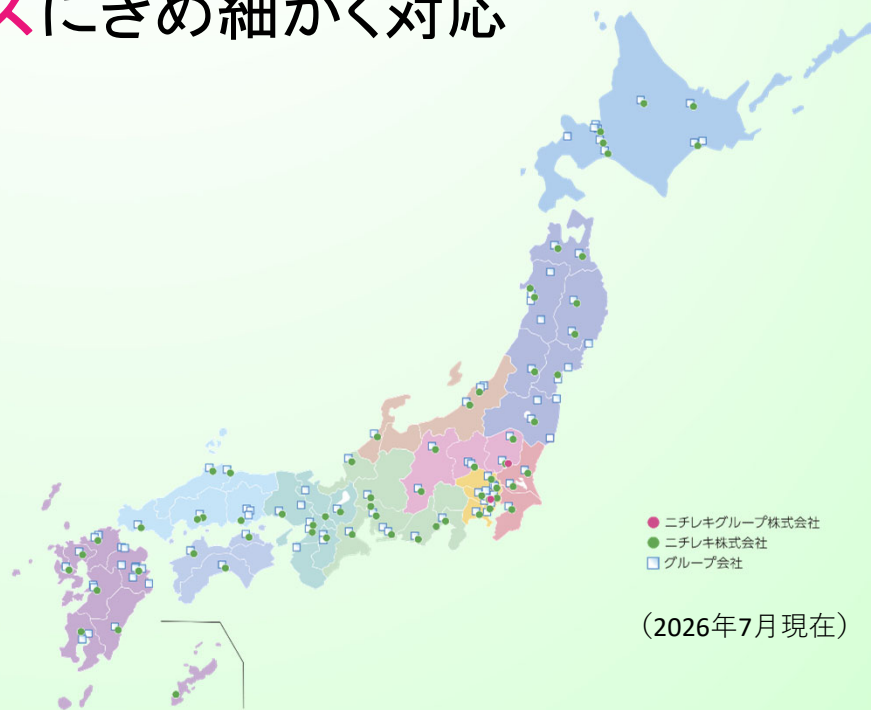
50名を超える従業員が研究開発に従事
舗装における性能評価試験機類を配備
環境配慮型の製品・工法の研究開発を推進



競争力の源泉③ 日本全国に広がるネットワーク



地域ごとの異なるニーズにきめ細かく対応



Ⅲ. ニチレキグループの成長戦略

ニチレキグループの成長戦略



研究
開発力

製品ラインナップ拡大・高付加価値化

市場の拡大

既存市場

新規市場

既存製品・工法

新規製品・工法

既存市場への浸透

高品質な製品・工法の提供により
更なる信頼を獲得

**高付加価値な新製品・工法で
新たなニーズに応える**

長寿命・高性能・環境負荷低減



新規市場への参入

空港、港湾、民間企業の工場・
駐車場

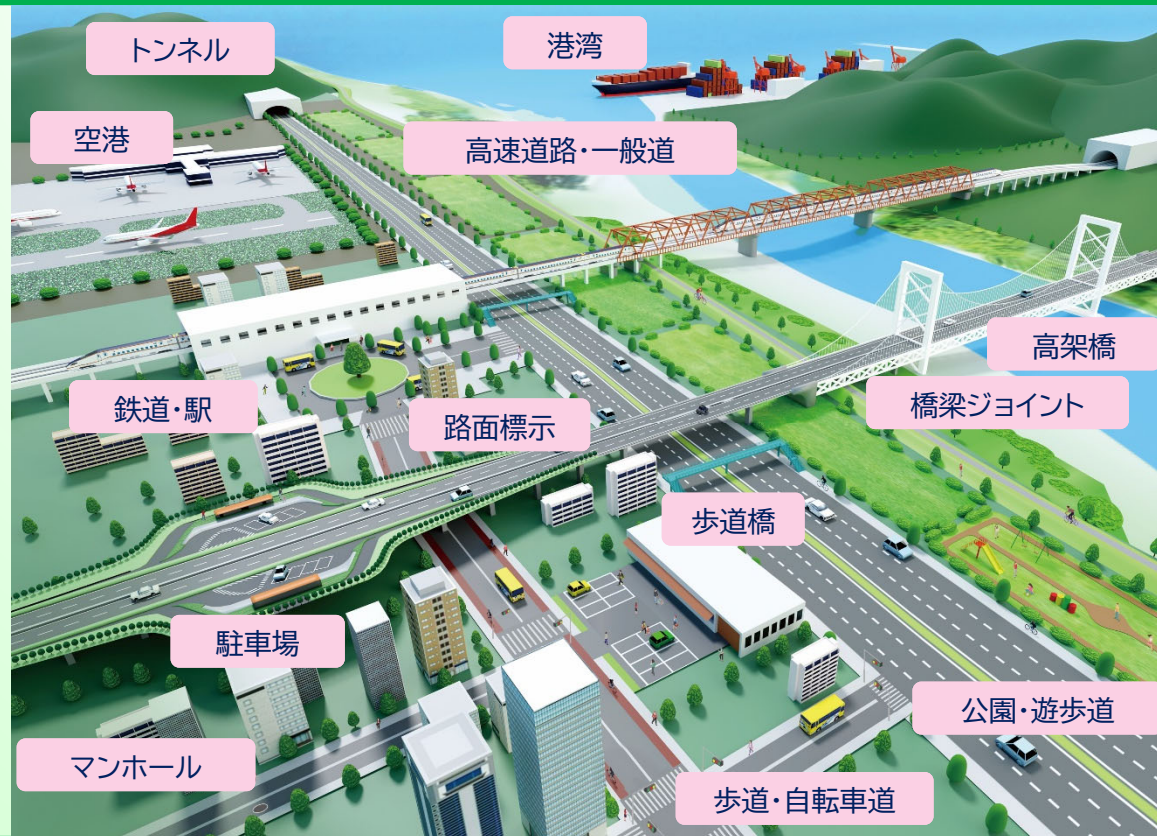
海外市場への参入

中国・インド等

**次世代ニーズに対応し新たな市場
に参入**

AIを活用した道路舗装の点検
低炭素社会・自動運転への対応

事業領域の拡大



港湾・コンテナ車レーン

大井縦貫線(コンテナ車レーン)

コンテナファルトS



東京都港湾局より、優良工事表彰・技術者表彰受賞

自衛隊施設 エプロン部

高塑性変形抵抗性
改質アスファルト混合物

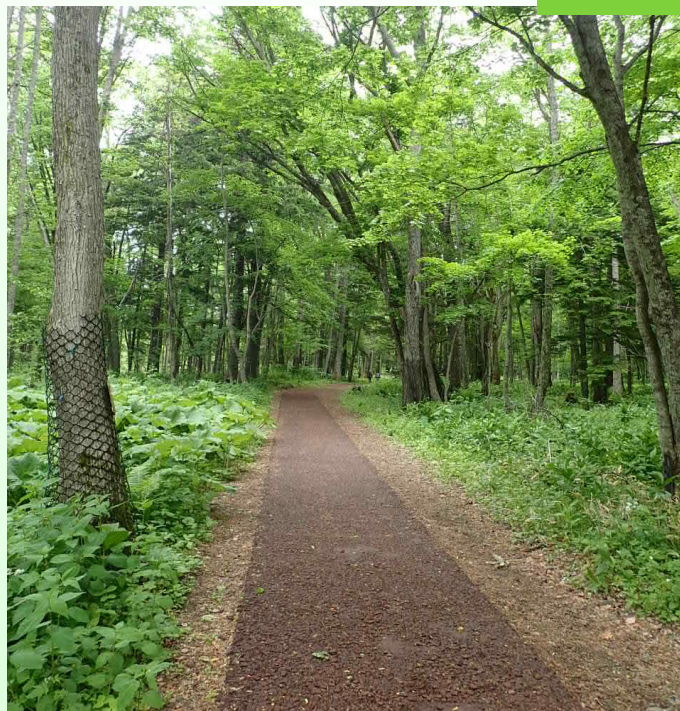


第8回インフラメンテナンス大賞
防衛大臣賞(メンテナンスを支える活動部門)受賞

公園・遊歩道

阿寒摩周国立公園

アスウッド舗装



遮熱性舗装

靖国通り

サーモテック工法



インド高速鉄道

2015年日印首脳会談で「**日本の新幹線方式の採用**」合意
第一弾の区間はムンバイ・アーメダバード間(505km)

2009年発表の7路線



インドで事業を展開する**オー・ジー株式会社**と
インドのグジャラート州バドドラに**合併会社を設立**



スマホを使った道路舗装の点検

日本の道路延長約128万km＝地球約32周分！

GLOCAL-EYEZ (グローバルアイズ)



乗用車に取り付けた**スマホ**で
道路を撮影するだけ



AIが自動解析するから誰でも点検可能



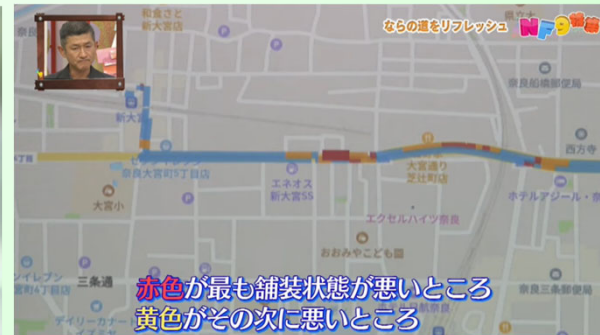
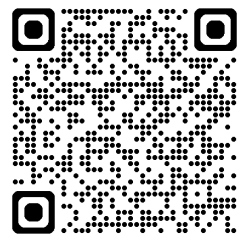
ニチレキのノウハウで
最適な補修方法を提案

「GLOCAL-EYEZ」がテレビで紹介

◆2025年11月21日奈良テレビ放送「ならフライデー9」にて「GLOCAL-EYEZ」が紹介

奈良県「**ならの道リフレッシュプロジェクト**」の
4つの柱のひとつ「**道路維持管理のDX**」の取り組みとして
「**GLOCAL-EYEZ**」が紹介されました。
実際に「GLOCAL-EYEZ」で計測するシーンをご覧ください。

奈良県公式総合チャンネル
(Youtube)



IV. 2027年3月期第1四半期 決算概要 および通期予想

決算ハイライト(連結経営成績・第1四半期)



(単位: 百万円)

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前期増減率/差額
売上高	13,700	14,225	3.8% ↑
売上総利益	2,641	3,313	25.4% ↑
販売費及び一般管理費	2,959	3,169	7.1% ↑
営業利益	▲ 317	143	+461 ↑
経常利益	▲ 114	329	+444 ↑
親会社株主に帰属する 当期純利益	3	241	+238 ↑

決算ハイライト(セグメント別業績・第1四半期)



(単位:百万円)

	アスファルト応用加工製品事業			道路舗装事業		
	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前期 増減率/差額	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前期 増減率/差額
セグメント売上高	5,260	5,701	8.4% ↑	8,369	8,446	0.9% ↑
セグメント利益	383	819	+436 ↑	192	▲71	▲263 ↓
セグメント利益率	7.3%	14.4%	7.1pt ↑	2.3%	▲0.8%	▲3.1pt ↓

※アスファルト応用加工製品事業のセグメント売上高は、外部顧客への売上高

※セグメント利益は、セグメント間取引消去および全社費用の調整額を控除する前の金額

通期業績予想(連結)

(単位:百万円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	対前期増減率
売上高	75,853	80,000	5.5% ↑
営業利益	5,920	6,000	1.3% ↑
経常利益	6,077	6,300	3.7% ↑
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,293	4,300	0.1% ↑

※ドバイ原油価格100ドル/バレル、為替160円/ドルで設定

V. 将来へ向けて

当社グループを取り巻く外部環境



政策



- ・第1次国土強靱化実施中期計画の開始(2026年度～)
2026～2030年度で事業規模20兆円強
- ・技術基準の改定および道路法の改正により脱炭素化が推進



経済



- ・雇用・所得環境の改善や各種政策の効果等により、景気回復基調が継続
- ・原油価格の高騰・為替相場の変動・サプライチェーンへの影響
- ・インフレの継続と資材価格の高騰によるコスト上昇



社会



- ・自然災害の激甚化・インフラ老朽化に対する危機意識の高まり
- ・労働力人口の減少・働き方改革の進展



技術



- ・AI技術をはじめとする技術革新とDXの加速
- ・サイバー攻撃やシステム障害などの「サイバーリスク」の高まり

足元の事業環境の変化への対応

～中東情勢を踏まえた取り組み～



現状

- 中東地域における地政学リスクの高まりによる原油調達環境の変化、サプライチェーンリスクおよび原油価格変動リスクの増大
- 原油価格は、前年度平均の約6.5万円/tから約10.0万円/t近くまで上昇した後、中東情勢の影響を受けながら高値圏で推移

リスク

対応

調達安定性の低下

当社グループのネットワークを最大限活用し、**あらゆる調達施策を通じて原材料の安定供給確保**に取り組むとともに、**適切な在庫管理により供給リスクを低減**

原材料調達コストの上昇

原材料調達コスト上昇分を製品・工事価格へ反映できるようお客さまにご理解を頂くとともに、**適正な価格転嫁に向けた対応**を実施

情勢変化に対する対応

経営層がタイムリーに情勢をモニタリングし、**変化に対して機動的な意思決定を下せる体制を構築・運用**

第11次中期経営計画

のびやか2030

(2026年度～2030年度)

計画の目的

『しなやか2025』で残された課題と
直面する経営環境を踏まえ
『創業100年 将来ビジョン』(2043年)
の実現に大きく前進する。

第11次中期経営計画
『のびやか2030』
～しなやかに対応し、のびやかに成長～

第10次中期経営計画
『しなやか2025』
～組織レジリエンスの高い企業へ～

創業100年 将来ビジョン
「道」創りを通してすべての
ステークホルダーに安心を届ける

2026

2030

2043

中期経営計画 財務目標



(単位:百万円)

財務指標	2025年度	2030年度	
	実績	目標	2025年度比
売上高	75,853	86,000	113%
営業利益	5,920	6,800	115%
EBITDA	8,674	11,300	130%
EBITDAマージン	11.4%	13.1%	-
ROE	5.5%	6.0%	-
配当性向	53.4%	50%程度	-

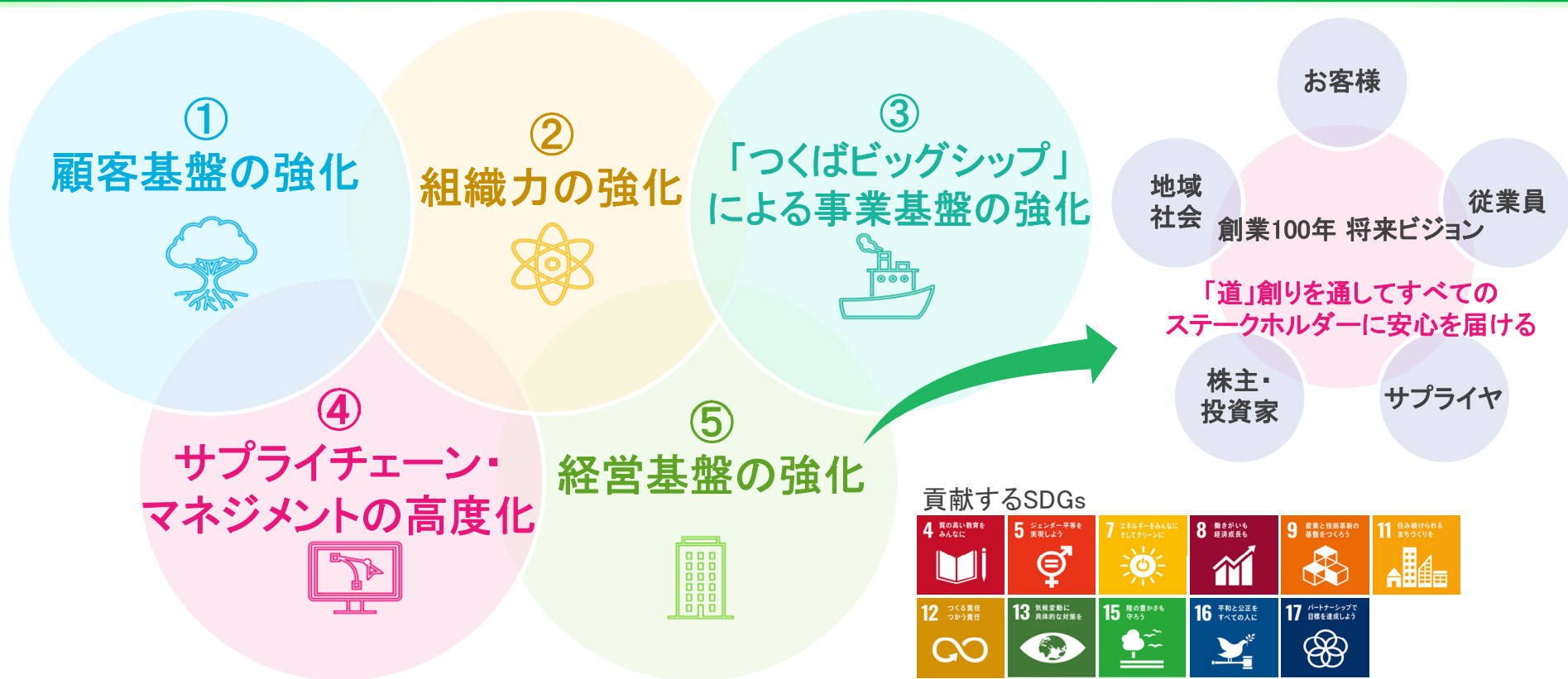
※2030年度は65ドル/バレル、160円/ドルで設定。

中期経営計画 非財務目標



KPI	2025年度 実績	2030年度 目標	対象ステーク ホルダー
環境配慮型製品・工法の 売上比率	22%	50%以上	お客様 ・ 地域社会
新製品・工法開発（改良含む） 上市件数（2021年度以降累計）	13件	20件以上	
共同研究開発上市件数 （2021年度以降累計）	2件	5件以上	サプライヤ
購買先評価実施率	100%	100%	
有給休暇年間取得日数 （年間付与日数10日以上 of 従業員を対象）	5割以上 76.2%	7割以上 100%	従業員
コンプライアンス 社内研修会実施回数	2回	2回	
決算説明会開催回数	2回	2回	株主・投資家

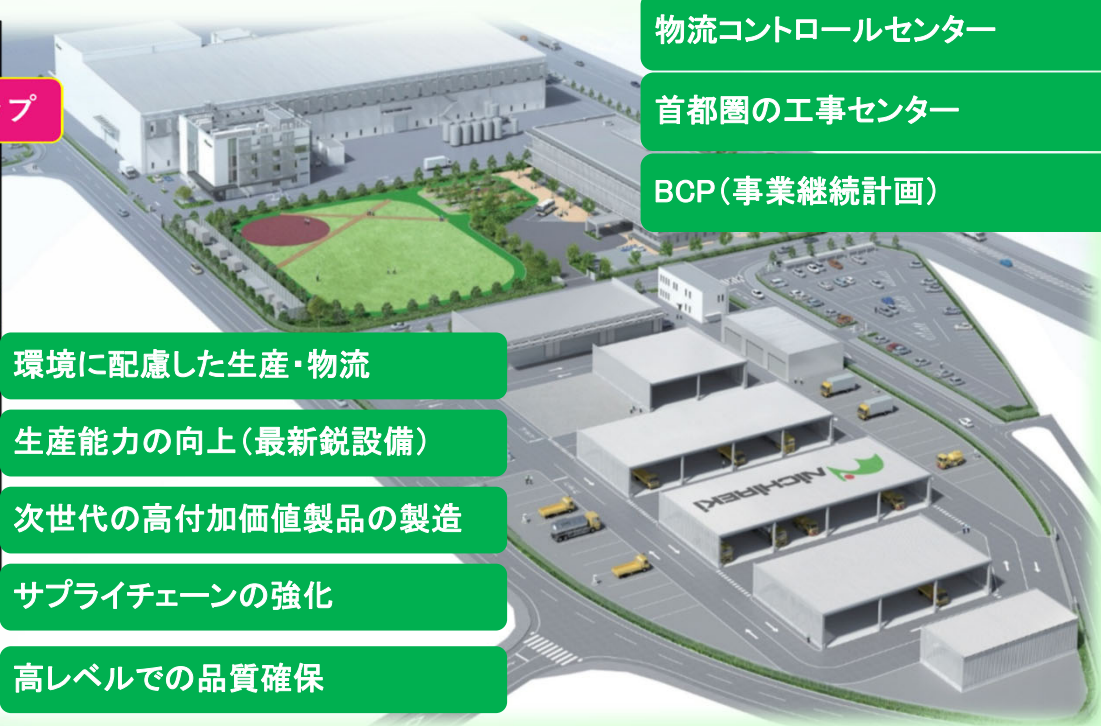
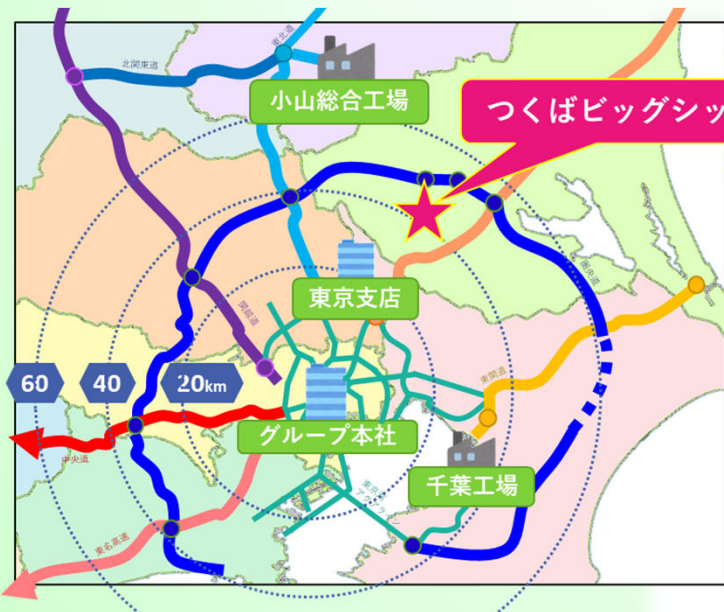
重点施策



重点課題～「つくばビッグシップ」による事業基盤の強化



◆つくばビッグシップが2027年度中に稼働予定



車両・機材のモータープール

物流コントロールセンター

首都圏の工事センター

BCP(事業継続計画)

環境に配慮した生産・物流

生産能力の向上(最新鋭設備)

次世代の高付加価値製品の製造

サプライチェーンの強化

高レベルでの品質確保

ESGの取り組み

「E」 (環境)

- CO₂排出量削減に貢献する製品・工法の開発に注力
- 気候関連財務情報開示タスクフォース TCFDに賛同
- CDP気候変動レポート2024で「B」スコア認定(上から3番目の評価)

「S」 (社会)

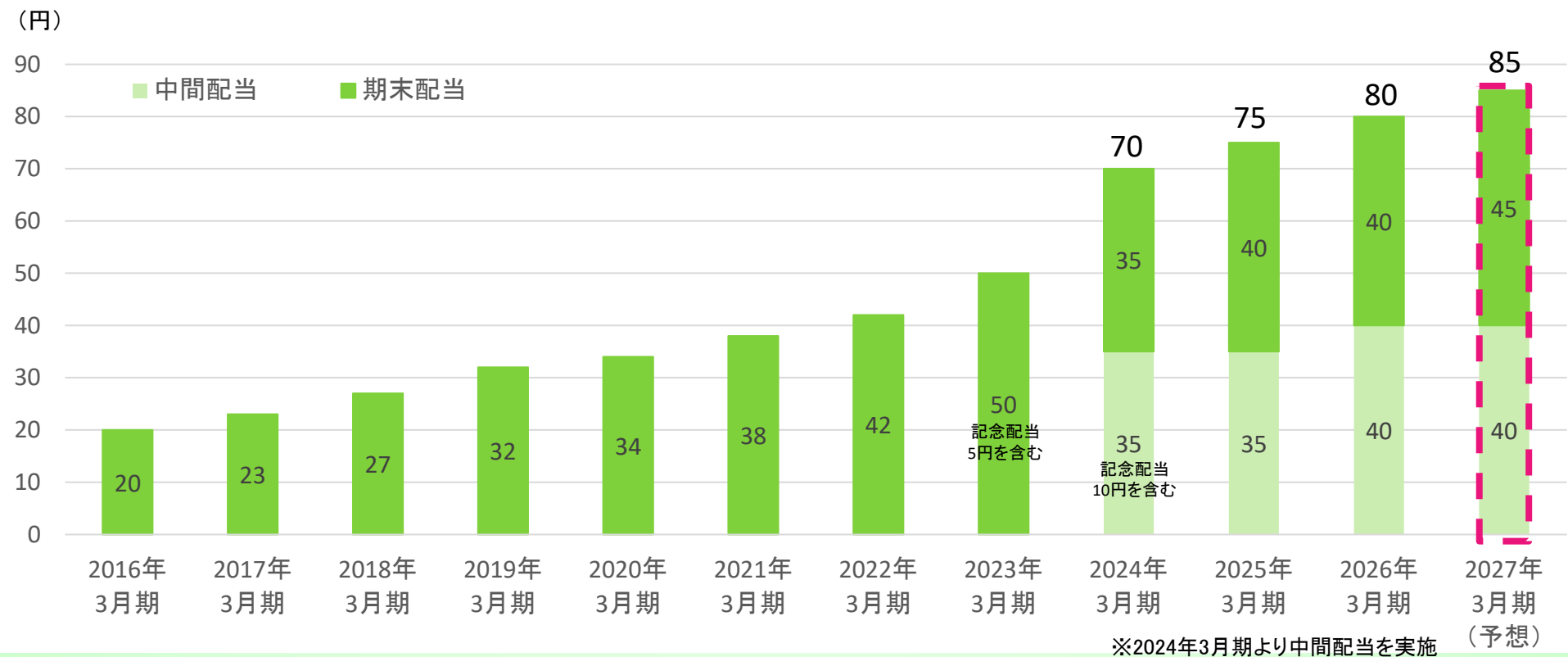
- 舗装の強靱化・長寿命化に資する技術・製品の提供を通じ、
老朽化が進む社会インフラの課題解決に貢献
- 地震に強い舗装の提供により災害に強いインフラ整備を支援

「G」 (ガバナンス)

- 持株会社体制および監査等委員会設置会社への移行を通じ、
グループ経営の効率化と監督機能を強化
- 譲渡制限付株式報酬制度の導入により、経営陣の報酬と
株主価値の連動性を強化

VI. 株主様への還元

配当予想及び推移



資本コストや株価を意識した経営の実践



現状分析

【資本収益性】

- 2020年度以降は、それ以前と比較して一段階高いレベルのROE及び当期純利益を獲得
- 近年は株主還元を強化し**1株あたり配当額は2026年度に85円/株(予想)と11期連続で増配見込み**
機動的に**自己株式の取得**を実施し、総還元性向も大幅に向上

【市場評価】

- PBRは2023年度以降1倍近辺まで上昇した後、外部環境の影響を受けつつ一定水準で推移

取り組み

- 中長期的な収益の安定性や成長性に対して株式市場から十分な評価を得られるよう、**新中期経営計画「のびやか2030」にて策定した各施策を着実に実行**
- 継続的に収益力の強化、資本効率の改善を図り、資本コストを低減

◆ ご注意事項

本資料に含まれる業績予想等の将来予測に関する記述は、資料作成時点における入手可能情報および、当社の判断・仮定に基づくものです。今後の経済状況および事業環境の変化等により、実際の業績は現時点の予測から乖離する可能性があります。

◆ お問い合わせ先

ニチレキグループ株式会社 広報部 IR担当

TEL: 03-3265-1513(8:30～17:30、土日・祝日を除く)

HP : <https://www.nichireki.co.jp/inquiry/>